

# 2023年産 おいでまい栽培のしおり

香川県農業協同組合綾坂地区営農センター  
香川県中讃農業改良普及センター（監修）

## 生育特性に合わせた栽培管理を行い、高位安定化生産に取り組み、安全で安心な売れる米を作しましょう！

病害虫の発生状況については最新の香川県病害虫防除所のホームページをご覧ください。



### ○ 環境への配慮

- ① 稲わら、麦わら等は焼かずすき込み、堆きゅう肥等の施用により土づくりに努めましょう。
- ② 農薬散布の際は、周辺環境に被害を及ぼすことがないように飛散防止対策を講じましょう。

### ○ 品質・食味の向上

- ① 近年、平均気温が上昇していますので、播種、田植時期は生育管理の目安に準じて行いましょう。
- ② 地力に応じた施肥に努め、特に穂肥は草姿、葉色、品種特性に合わせた適期、適量の施肥を行いましょう。
- ③ 生育期間を通じて間断灌水を行い、適正な水管理に努めましょう。
- ④ 必須防除の徹底と病害虫の発生状況に応じて確認防除を実施しましょう。
- ⑤ 収穫前には異品種の混入を回避するため、コンバイン、乾燥機等の清掃を徹底しましょう。
- ⑥ 品質・食味を落とさないよう初黄変率85%程度の時に収穫し、収穫後3時間以内に乾燥作業を行いましょう。

### ○ JA香川米への取り組み

消費者から信頼され、売れる米づくりのため、下記の要件を満たしたJA香川米の生産に取り組みましょう。

- ① 銘柄が確認された種子（毎年、種子更新100%）により生産・出荷されたお米
- ② 栽培基準が守られている事が栽培履歴書により確認されたお米（収穫15日前までに各支店、ふれあいセンターへ栽培履歴書を提出して下さい。）」
- ③ JA香川県で農産物検査を受けたお米

### 「おいでまい」の特徴と栽培上の留意点

- ① 分けつが旺盛なため植付本数が多いと過繁茂となるので、1株植付本数は3〜4本とします。
- ② 葉色がうすめに推移するので、過度の施肥はしないでください。
- ③ 強い水管理（干しすぎ）は、根を傷めて収量・品質を落とすので、適切な水管理を行いましょう。
- ④ いもち病には「弱い」ので、育苗箱防除、本田防除は必ず実施し、発生が見られたら確認防除を行いましょう。

## 1. 生育・管理の目安

生育相	活着時期		茎が増える時期		茎の増加を抑える時期		穂ができる時期		穂が大きくなる時期		穂に実が入る時期	
	作業	田植日(播種日)	間断灌水開始(田植後15日頃)	中干し開始	中干し終了(出穂28日前)	穂肥施用(出穂18日前)	出穂期	収穫期(出穂後36〜43日)				
作業の目安	基準	6月20日(6月1日播種)	7月5日	7月20日	8月1日	8月11日	8月29日	10月10日				
	管理の目安	6月25日(6月6日播種)	7月10日	7月23日	8月3日	8月13日	8月31日	10月12日				
水管理	活着後	湛水	浅水	中干し	中干し	中干し	湛水	浅水				
	栽培管理のポイント	育苗 土作り 基肥施用 育苗箱防除 田植え 雑草防除	確認防除(7月上旬〜8月上旬)	中干し開始	中干し終了	確認防除	穂肥施用	粒剤体系必須防除	液剤体系必須防除	落水	収穫	乾燥

## 2. 施肥基準

### 1) 基肥+穂肥の施肥基準

肥料名	施肥方法	全量	kg/10a	
			基肥	穂肥(出穂18日前)
スーパーブレンドLP40	施肥機付田植機	50	25	25

\*手振りの場合は、基肥を1割増肥する。

### 3) 土壌改良資材

資材名	全量(基肥)	kg/10a	
		ユーキ鉄ケイカル	苦土一番
ユーキ鉄ケイカル	100		
苦土一番	40		
けい酸加里	30-40		

### 2) 基肥一発の施肥基準

肥料名	施肥方法	全量	kg/10a	
			基肥	成分量
おいでまい一発		40	40	N7.2 P4.0 K4.8
さめきの米一発(J)	施肥機付田植機	35	35	N7.0 P4.2 K4.2
中生一発(J)		35	35	N7.0 P3.5 K4.2

\*手振りの場合は、基肥を1割増肥する。

## 3. 雑草防除基準

区分	使用時期(推奨)	対象雑草名	除草剤名	使用基準(登録内容)		使用月日
				10a当り使用量	使用時期	
初期除草剤	いすれか	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ アオミドリ類 による表層刈離	カチボシL ジャンボ	30g×10個(300g)	移植直後〜ノビエ2.5葉期 だだし、移植後30日まで	1回
			ジェイソウル フロアブル	500ml	移植時〜ノビエ2.5葉期 だだし、移植後30日まで	1回
			キクトモ 1キロ粒剤	1kg	移植時又は移植直後〜ノビエ2.5葉期 だだし、移植後30日まで	1回
中期除草剤	いすれか	ノビエ キシユウスメノヒエ アザギヤ	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg	移植後7日〜ノビエ4葉期 だだし、収穫30日前まで	2回以内
			マツバイ ホタルイ クログワイ ミズガヤツリ ウリカワ	セカンドショット SジャンボMX (500g)	移植後14日〜ノビエ3.5葉期 だだし、収穫45日前まで	1回
			水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ オモダカ キシユウスメノヒエ	クリンチャーバス ME液剤	1000ml	移植後15日〜ノビエ5葉期 だだし、収穫50日前まで
草剤	いすれか	水田一年生雑草 (イネ科除く) マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ オモダカ	バサグラン粒剤	3〜4kg	移植後20日〜30日(落水後処理) だだし、収穫60日前まで	1回

## 4. 病害虫防除基準

### 1) 必須防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)		回数	注意事項	使用月日
			消費倍率	使用時期			
育苗期	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類、コブメシ類	テラゲルCフロアブル	200倍(水10Lに50ml)	移植前	1回	①乾燥後24時間以上経過し、浸種前	
	心枯病	スミチオン乳剤	1000倍(水10Lに10ml)	播種前	1回	②浸種後は浸種水を水洗いせずに浸種する ③浸種後の薬液は用水などに流さない	

### 育苗期の防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)		回数	注意事項	使用月日
			消費倍率	使用時期			
育苗期	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	テラゲルCフロアブル	200倍(水10Lに50ml)	移植前	1回	①播種後の多い条件では苗が伸びず、浸種に付着した薬液は、早い落としで脱着する ②浸種後は浸種水を水洗いせずに浸種する ③浸種後の薬液は用水などに流さない	
	トリコゲルマフロアブル	200倍(水10Lに50ml)	移植前	1回	①播種後14日後までに使用する ②浸種後は浸種水を水洗いせずに浸種する ③浸種後の薬液は用水などに流さない		

### 育苗箱防除

防除時期	使用地域	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)		回数	注意事項	使用月日
				消費倍率	使用時期			
育苗期	中山間〜平野地	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類、コブメシ類	ビルダゲルCフロアブル	50g	緑化期〜移植前	1回	①劣化苗、軟弱徒長苗、葉色がぬれでいすれか ②葉色に付着した薬液は、早い落としで脱着する ③移植直前に灌水し、薬液を洗い落とす ④劣化苗は、必ず使用開始後3日以上あける	
		いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	Dr.オリスタークフロアブル	50g	緑化期〜移植前	1回	①劣化苗、軟弱徒長苗、葉色がぬれでいすれか ②葉色に付着した薬液は、早い落としで脱着する ③移植直前に灌水し、薬液を洗い落とす ④劣化苗は、必ず使用開始後3日以上あける	

### 本田防除

区分	防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)		回数	注意事項	使用月日
				消費倍率	使用時期			
粒剤体系	いすれか	① 出穂20〜15日前 ② 出穂10〜20日	ゴウケフモンスター粒剤	3kg	収穫45日前まで	1回	① 3cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は湛水やかけ流しをしない。	
			スターク粒剤	3kg	収穫7日前まで	3回以内	① 稲葉は3cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は湛水やかけ流しをしない。 ② スターク粒剤は、稲葉に付着した薬液は、早い落としで脱着する。 ③ 浸種後の薬液は用水などに流さない。	
			スターク粒剤	250g	収穫7日前まで	3回以内	① 3cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は湛水やかけ流しをしない。	
液剤体系	いすれか	① 8月15日頃 ② 出穂前直前 ③ 出穂後10〜20日	バリダジ液剤	1,000倍(60〜150L)	収穫14日前まで	5回以内	① 再入や噴霧器にも均一にかかるように散布する。	
			ダブルカットバリダジフロアブル	1,000倍(60〜200L)	穂肥期まで	2回以内	① いすれかに散布し、稲葉に付着した薬液は、早い落としで脱着する。	
			スターク液剤	2,000倍(60〜150L)	収穫7日前まで	3回以内	① 水田用として均一に散布し、散布後1週間は湛水やかけ流しをしない。 ② 劣化苗の発生を防ぐための必須防除となる。	

\*出穂前にダブルカットバリダジフロアブルとスターク液剤の混用散布を行う。

### 2) 確認防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)		回数	注意事項	使用月日
			消費倍率	使用時期			
移植時	スクミンゴガイ(ジャコフコナシ)	スクミンゴ	1〜4kg	収穫60日前まで	2回以内	① 移植後、スクミンゴガイを確認したら散布する。 ② 水田周囲や湛水になる場所は被害が多いので、所定の範囲内で多めに散布する。	
		ジャンボたしけん	1〜2kg	収穫45日前まで	2回以内	① 3cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は湛水やかけ流しをしない。	
穂ばらみ期〜穂肥期	紋枯病、うじ病	モンガリット粒剤	3〜4kg	収穫45日前まで	2回以内	① 3cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は湛水やかけ流しをしない。	
		バダン粒剤	3〜4kg	収穫30日前まで	6回以内	① 3cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は湛水やかけ流しをしない。	
7月中旬〜8月上旬	ウンカ類、カメムシ類、コブメシ類	コトコト粒剤	250g	出穂5日前まで	2回以内	① コトコト粒剤は、3cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は湛水やかけ流しをしない。	
		コトコト粒剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	① コトコト粒剤は、3cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は湛水やかけ流しをしない。	

\*稲こじ病の液剤処理はバリダジフロアブル1000倍にて行う。

\*農薬・除草剤は2022年10月1日現在の登録状況による 2022年10月作成